

被害者支援 ニュース

公益社団法人
全国被害者支援ネットワーク
National Network for Victim Support

第32号

2020.7.20 発行

公益社団法人

全国被害者支援ネットワーク

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10

東京外国語大学本郷サテライト 6階

TEL 03-3811-8315 FAX 03-3811-8317

ホームページ <http://www.nnvs.org/>

Twitter 公式アカウント @nnvs_org

- 巻頭言 ……平井紀夫前理事長退任挨拶 1
- 椎橋隆幸理事長就任挨拶 2
- 2020年度 全国被害者支援ネットワーク役員表 2
- 専務理事/監事就任挨拶 3
- 特集 ……犯罪被害者支援を考える学ぶ講座 4~6
- 寄稿 ……高知県における犯罪被害者等の支援に特化した条例施行までの経緯と取組みについて 7
- お知らせ・編集後記 8

巻頭言 退任のご挨拶

公益社団法人全国被害者支援ネットワーク
特別顧問(前理事長) ● 平井 紀夫

このたび全国被害者支援ネットワークの理事長を退任させていただきます。

在任中は全国の被害者支援センターの皆様、ネットワークの役職員の皆様、そして警察庁、日本財団等多くの関係の皆様にご助言、ご支援、ご協力を賜り、深く感謝いたしております。

理事長就任に当たり、犯罪被害者支援の民間団体として「日本に相応しい創造的な犯罪被害者支援活動を築く」ことを肝に銘じ、創設者の山上前理事長の思いを引き継ぐべく、組織運営方針として①「被害者への深い思いと被害者支援への強い思い」②「被害者のための被害者支援」③「組織的運営の強化」を掲げ、この運営方針を基本に据えたネットワークの3年計画及び10年ビジョン(犯罪被害者等が「全国のどこにいても」「いつでも」「被害者が求める支援に応えることができる活動」)によって事業を推進してまいりました。

振り返ってみると、支援活動・人材育成に関しては、人材育成体系を再構築し、人材育成を組織的、継続的に進め、相談員等の質の向上に努めました。具体的には、従前から実施しているブロック研修や全国研修会に加え、課題研修やコーディネーター研修を進め、特にNNVS認定コーディネーターの育成・配置に努め、全ブロックに配置することができ、現在は被害者支援センターの支援活動責任者の育成にも努めていただいているところです。

また、犯罪被害者等電話サポートセンターの創設と運営に注力してまいりました。電話サポートセンターは、全国ネットワークに相談電話を開設し、各被害者支援センターと連携しながら夜間・休日等被害者支援センターの活動が困難な部分を補完する活動であります。支援活動の経験のないネットワークにとって運用には困難を極めました。都民センターはじめ首都圏の被害者支援センターのご助力のおかげで創設、運営することができるようになり、また、電話相談員の皆さんの使命感に満ちた活動の賜物であると深く感謝いたしております。

全国の相談員等の皆様の活動に報いるべく警察庁のご協力を得て表彰制度を創設できました。被害者支援功労者にネットワーク及び警察庁から栄誉賞、特別栄誉賞を授与することとし、職員の方々には功労職員表彰、功労のあった被害者支援センターには功労団体賞を授与、また、私たちの活動を支援いただいている方々に感謝状を授与して長年のご貢献にお応えすることといたしました。さらに、ネットワークが内閣府賞勲局の認定団体となり、国の褒章(藍綬褒章)及び叙勲も受けることができるようになりました。

広報啓発活動に関しては、支援ニュースやネットワークニュース、被害者の声、年間活動報告等の発行、全国犯罪被害者支援フォーラムの開催、ACジャパンによるテレビ等の全国的な広報活動、SNSを活用した全国的な広報啓発活動を展開することができました。

組織活動に関しては、全都道府県の被害者支援センターが公安委員会から犯罪被害者等早期援助団体の指定を受けることができました。また、全国及びブロック事務局長会議、全国理事長会議等を通じて課題や支援活動状況の共有を図り、ネットワークと各被害者支援センターの連携強化に取り組んでまいりました。

最大の課題である財政基盤の確立に関しては、先輩の皆様方のご努力で実現した預保納付金による助成の充実に努め、また、寄付型自販機設置やホンデリング等の施策を全国的な活動へと充実させることができました。財政基盤の確立はネットワーク、各被害者支援センターともに今後の大きな課題ではありますが、これまでの活動を積み上げて、支援活動の基盤を一層強化・充実されていくことを願っております。

ネットワークの組織運営は、10年ビジョンに基づき組織の意思決定(理事会)と執行(部会)に再編成し、人事諮問委員会、ガバナンス委員会により客観的な組織運営に努めてまいりました。ブロック担当理事の皆様のご努力より、ブロック研修やブロック事務局長会議を通じて被害者支援センターとネットワークの組織的な連携も深まってきております。

私自身は、全国の被害者支援センターを訪問させていただき、理事長はじめセンターで活動しておられる多くの皆様方と被害者支援活動の現状や課題を共有することができ、ネットワークの3年計画や10年ビジョンの策定やネットワークの組織運営に活かすことができました。また、各被害者支援センターが主催される犯罪被害者支援フォーラムに参加させていただき、犯罪被害者支援の広報啓発活動の助力をさせていただくことができ、大変有り難く、深く感謝しております。

以上活動の一端を申し述べましたが、これら諸事業は、全国の被害者支援センターの皆様方のたゆみないご活動と、ネットワークの顧問の皆様からのご助言、そしてネットワークの理事、部会・委員会の皆様のご努力の結果であり、関係の皆様方に深くお礼申し上げますとともに、皆様方の今後一層のご活躍とご多幸を心から祈念いたしております。

今後は日本の被害者学の権威者であり、被害者及び被害者支援に深い思いをお持ちの椎橋理事長の下で日本の被害者支援活動が一層充実・発展することを心より願っております。

発行：公益社団法人全国被害者支援ネットワーク